



明日香・聖徳通信



令和5年11月17日発行 校長 角田 哲典 第7号

□第8回幼小中交流音楽会開催

先日11月11日(土)に8回目となる幼小中交流音楽会を4年ぶりに実施しました。コロナ禍の中、子どもたちの命を守ることが最優先となり、今まで当たり前になっていた、大きな声で歌ったり、友達と手をつないだりすることが出来ない日々が数年続きました。

親しいからこそ、大切な人だからこそ「距離」を保たなければならない状況が続き、人と人とのつながりについて深く考えさせられた時間でもありました。

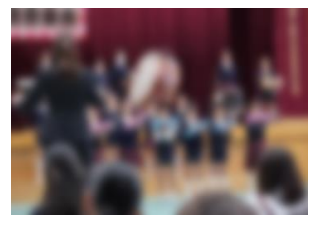
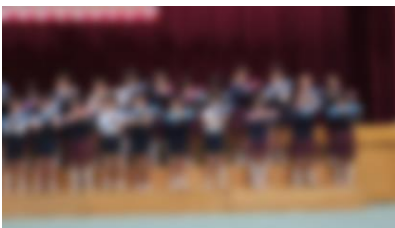
音楽の授業においても、ここ数年、自由に音が出せないという制約がありましたが、幼小中の音楽科教員の知恵と工夫により、子どもたちに「音を楽しむ」という経験を積んできました。そして、ようやく園児・児童・生徒が聖徳中学校の体育館に集い、たくさんのお家の人の前で友達と一緒に歌ったり、心を一つにした演奏をしたりすることができました。

思わずため息をもらしてしまうほど息のあった小学生の合奏や、表現力が豊かで心のハーモニーが響く合唱、中学生の迫力ある吹奏楽や園児の和太鼓演奏等どの子も真剣な姿や爽やかな笑顔に出会うことができました。

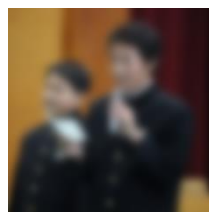
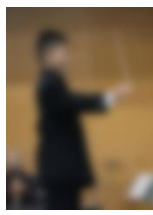
残念ながら中学校3年生はインフルエンザ感染症のため学年閉鎖に伴い、舞台に立つことが出来ませんでした。が、「3年生の先輩たちがいない分、わたしたちが頑張ろう」と、後輩たちは交流音楽会を盛り立ててくれたことと思います。

保護者の皆様、子どもたちの演奏に温かい拍手をいただき本当にありがとうございました。

(小学校)



(中学校)



□読書のススメ 前号でも「読書」について掲載しましたが…今号でも…。

中国・唐の時代の文人である韓愈(かんゆ)が残した詩の中に「燈火(とうか)親しむべし」という一節があります。その意味は「秋になると涼しさが気持ちよく感じられる。そんな秋の夜長にはあかりをつけて 本を読むのに適した季節である」ということで、韓愈が息子に対して勉強を勧めた言葉として知られています。この言葉が「読書の秋」という言葉の由来とされています。

何年も前から子どもの活字離れや国語力の低下、対話による問題解決能力の低下などが指摘されています。読書活動はこれらの能力を高めていくだけでなく、豊かな心と確かな学力を育むための大切な取り組みとしてますます重要性を増しています。読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

今の時代は手軽なゲーム機やコンピューターゲーム、「スマホ」など、読書以外に子どもたちを魅了するものがたくさんあります。今の社会ではこれらをすべて否定することはできません。ですから、なおさらこれらの使用方法をご家庭できちんと確認しながら「ゲームもいいけど読書も楽しいよ。」と両者を上手に共存できる方法を探ってみてはいかがでしょうか。子どもにとって読書は想像力や考える習慣を身に付けるよい機会です。是非ご家庭でも休日等を利用して読書を楽しんでください。日頃から本を身近に置き、時間を見つけて読書する習慣を身に付けてほしいと願っております。



□第4回幼小中教職員合同研修会開催について（11月17日）

明日香村の一貫教育ではこれまで、言語力の「話す・聞く・読む・書く」の4領域を幼小中共通の中心課題として取り組んできました。今年度からは、今までの取組を継承しつつ「新たな10年の始まりの年」と位置づけ研究テーマを「問題解決能力の向上を目指して」と設定し、今年「具体的な方向性」を幼小中教職員の研修会を通して明確にしようとしているところです。今回の合同研修会では一貫教育の第一段階である幼児教育に焦点をあて「幼小の接続として、どのような力が小学校につながるか」について研修をします。

□小中合同マラソン大会実施について（12月7日）

小中合同マラソン大会を近隣公園周辺において実施します。練習期間や出発時刻等は本日配布させていただいた「明日香小学校・聖徳中学校 合同マラソン大会実施について」でご確認ください。また、当日保護者のみなさまが応援に駆けつけていただいた際には、子どもたちに大きな声援をよろしくお願いします。